

闘病記を用いた ナラティブ教材に対する 統合失調症の回復の 学生の受けとめ方 テキストマイニング分析より 小平 朋江 いたうたけひこ



保健医療福祉の総合大学

聖隷クリスファー大学



和光大学

第35回日本看護科学学会学術集会

示説 第16群 P6-16-04

第6会場(広島国際会議場 B2F コスモス)

2015年12月6日(日) 13:00~13:40

問題

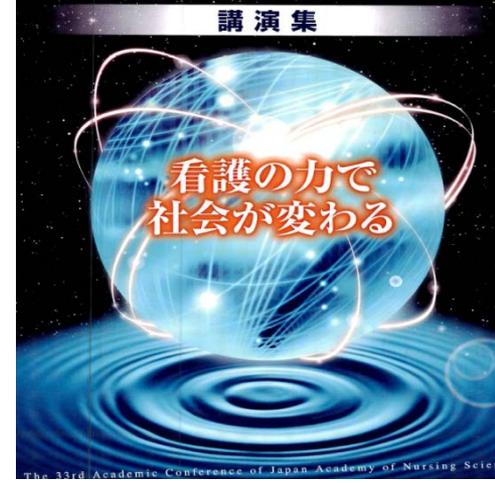
- 入院中心医療から地域で当事者が生活する支援という精神看護学での理論と実践の変化

◎千葉・宮本(2009)

看護職者などの専門職者のリカバリー志向性を高める研究を進展させることで、ユーザーの視点に立った精神保健サービスの発展に、看護の視点から寄与することが期待できる

◎心光(2013)

様々な場で精神障害の当事者を支援している看護
護師はそもそもどのような「回復」像を持って支援にあ
たっているのか、現状における視点はまだ明らかにさ
れていない



リカバリー (WHO, 2013/2014)



- WHO『包括的メンタルヘルスアクションプラン2013-2020』日本語訳版(2014)
p38「主要用語一覧」より

リカバリー (Recovery)

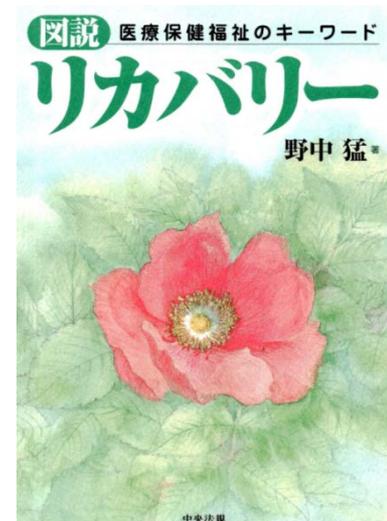
精神疾患を有する人々の目から見れば、リカバリーとは、希望を得ること・維持すること、各自の能力と障害を理解すること、活動的な生活を送ること、個人の自律、社会的アイデンティティ、人生の意味と目的およびポジティブな自己意識を意味する。リカバリーは治癒の同義語ではない。リカバリーとは、自分がリカバリーしつつあると考える個人によって経験される**内的状態**—希望、癒し、エンパワメント、つながりと、リカバリーを促進する**外的状態**—人権の行使、ポジティブな癒しの文化、リカバリー志向のサービス—の両方を指す。

リカバリーと闘病記・手記・当事者研究

◎野中(2011:p.2): 人生のナラティブの中のリカバリー

新たなリカバリー概念は、

1980年代後半のアメリカ合衆国において、精神障害をもつ方々の手記活動から生まれた。



◎向谷地(2015: p.793): リカバリーの関係性・相互性

当事者研究とは、

統合失調症を持つ人の生きづらさの中に、
自らの生きづらさを“共に”見出し、関心を寄せ、
今を生きる人として共に生きやすさを模索するプロセス
としてある。そこで起きる回復とは統合失調症を持つ人
だけではなく、そこに生命的な関わりを持とうとする人
達を巻き込んだ回復として成立するような気がする。

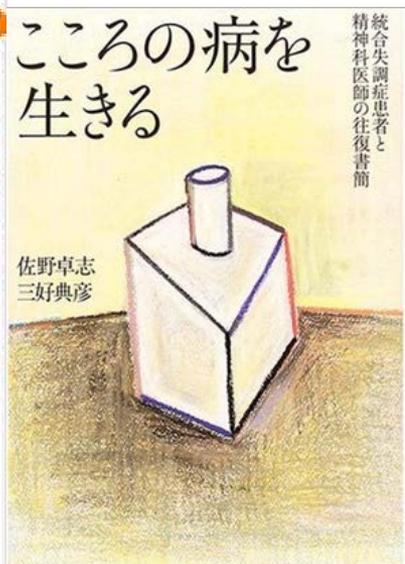


闘病記の教育的活用

- ・病いの理解
- ・当事者の生き方を学ぶ
- ・偏見低減効果
- ・より深い人間理解
- ・講義だけでは不足しがちな教育的効果が期待

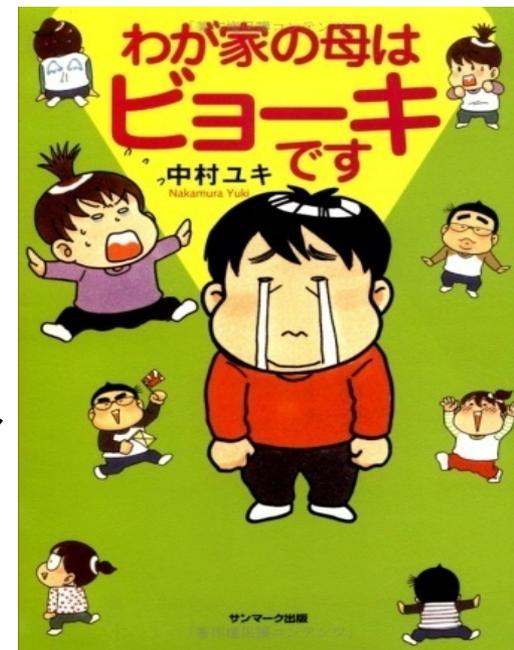


心をも病むって
どういふこと?!



ナラティブ教材とは

患者の病いの体験を患者や家族などが自ら自分のことばで語った物語りが表現された作品であり、学習者にとってその体験の理解を促進したり、助けになる目的で看護教育などに利用されうる形に教材化されたもの
(小平・伊藤, 2009)



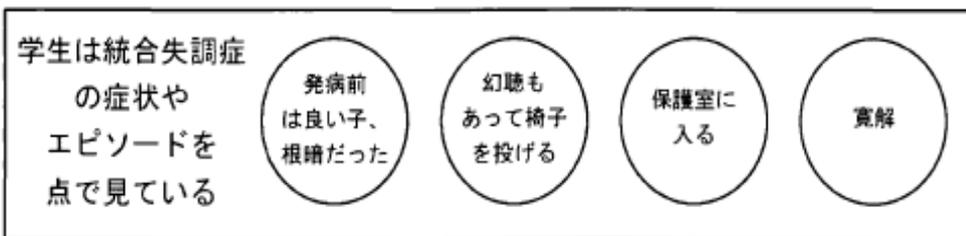
ナラティブ教材 による回復(リカ バリー)の学び

日本精神保健看護学会誌 Vol. 22, No. 2, pp. 68 ~ 74, 2013

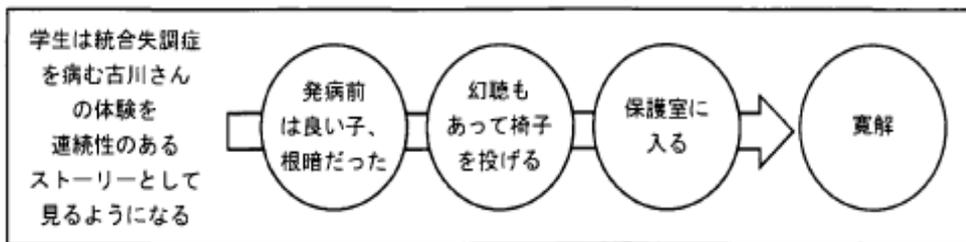
(資 料)

ナラティブ教材を用いた精神看護学授業での統合失調症の
イメージの変化

—テキストマイニングによる特徴語と評価語の分析—



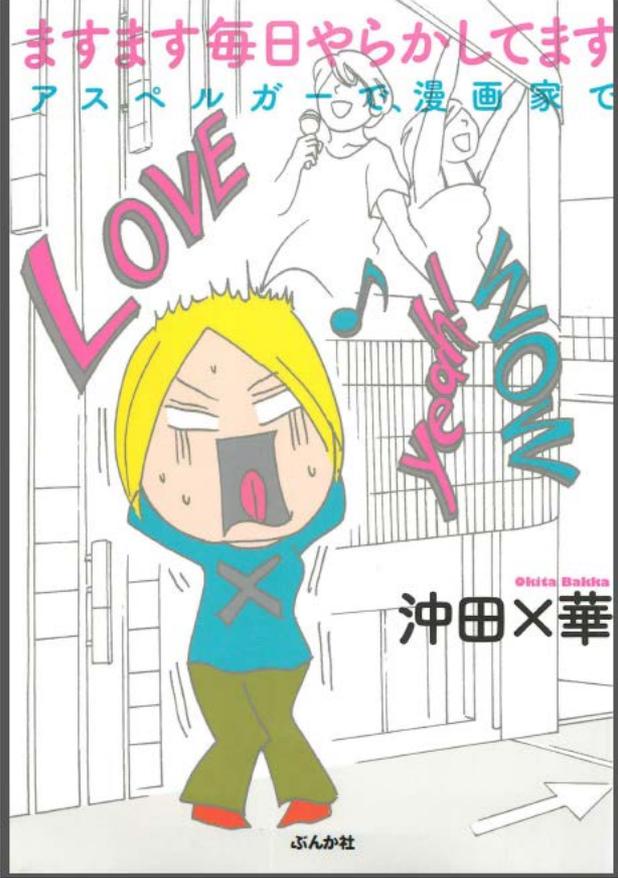
ナラティブ教材
の
活用



古川, 2001 の病いの体験に対する見方の変化の例

図2 学生はナラティブ教材をどのように経験するのか？

- 小平・いとう(2013)はナラティブ教材から「当事者視点で統合失調症を病む体験がどのようなものであるか、そして回復していく姿をも学ぶ」とした。
- 闘病記などから回復の語りをナラティブ教材として教育的活用することは、学生が当事者の多様な回復した姿のイメージを持ちやすくさせる意義があると考え



ますます毎日
やらかしてます。
アスペルガーで、漫画家で
2014年7月1日初版第1刷発行

著者 沖田×華 おきたばっか
発行人 角谷 治
発行所 株式会社ぶんか社

SP対談

「ポジティブに
いこう!」

沖田×華



いとうたけひこ

和光大学 心理学部 心理教育学科

沖田 さくですが、自分の漫画が、大学の授業で教材として使われているというのが嬉しいですね……。

いとう 聖隷クリストファー大学の小平朋江さんと共同研究でやっていることで、僕らは「ナラティブ教材」としているんですけど、これは「語りの教材」という意味で、病いや障害の体験を当事者や家族などが自らのことばで語った作品を、その体験の理解を促進する目的で学習教材化するというものです。手記・漫画・映像・ウェブサイトなどいろいろな形があります。体験談やコミックエッセイを読むことで、その人の症状やエピソードをひとつひとつの「点」で見るとはなく、連続性のあるストーリーとして、症状や本人の苦勞や生き方の理解を深めていけるようになります。

沖田 確かに、私のエピソードは日常的なものが多いかもしれません。

いとう 沖田さんはご家族やご友人の「他人の失敗や恥」も

いとう 聖隷クリストファー大学の小平朋江さんと共同研究でやっていることで、僕らは「ナラティブ教材」としているのですけど、これは「語りの教材」という意味で、病いや障害の体験を当事者や家族などが自らのことばで語った作品を、その体験の理解を促進する目的で学習教材化するというものです。手記・漫画・映像・ウェブサイトなどいろいろな形があります。体験談やコミックエッセイを読むことで、その人の症状やエピソードをひとつひとつの「点」で見るとはなく、連続性のあるストーリーとして、症状や本人の苦勞や生き方の理解を深めていけるようになるんです。

統合失調症闘病記217冊のリスト化

心理学第32巻第2号

表2 統合失調症の闘病記の単行本リスト

番号	著者名	発行年	書名	出版社
40001	高村光太郎	1941	智恵子抄	龍星閣・青空文庫
40002	クリフォード・ホイティンガム・ピアズ (1908) (加藤普佐次郎・前田則三訳)	1949	わが魂にあう (ふ) まで	羽田書店
50001	セシュエー (1950) (村上仁・平野恵訳)	1955	分裂病の少女の手記：心理療法による分裂病の回復過程	みすず書房
60001	小林美代子	1966	精神病院	文芸首都
60002	小林美代子	1967	籠となった女	講談社
60003	西丸四方	1968	病める心の記録：ある分裂病者の世界	中公新書
70001	小林美代子	1971	髪の花	講談社
70002	ハナ・グリーン (1964) (佐伯わか子・笠原嘉訳)	1971	デボラの世界：分裂病の少女	みすず書房
70003	石川正一	1973	たとえ僕に明日はなくとも	立風書房
70004	標 哲郎	1977	歩いてきた道・歩く道	星和書店
70005	笠原嘉	1978	ユキの日記：病める少女の20年	みすず書房
80001	佐々木章一	1980	分裂病の娘の記録	晩聲社
80002	クリフォード・ホイティンガム・ピアズ (1908) (江畑敬介訳)	1980	わが魂にあうまで	星和書店
80003	松本昭夫	1981	精神病棟の二十年	新潮社 (文庫)
80004	リュシアン・ボナツフェ (1966) (山田悠紀男訳)	1985	僕は分裂病です：ある精神分裂病患者の物語	同朋舎

10013	中村ユキ	2010	わが家の母はビョーキです2 家族の絆編	サンマーク出版
10014	利光康子	2010	統失：あなたは知っていますか、この病を？	太陽書房
10015	中村ユキ・当事者のみなさん・福田正人 (監修)	2011	マンガでわかる！統合失調症	日本評論社
10016	SumiNasu	2011	天使との会話『花詩集』	文芸社
10017	東郷知可	2011	限界	文芸社
10018	ラグーナ出版編集部 (編)	2011	勇気をくれた言葉たち：精神病体験を救ってくれた言葉	ラグーナ出版
10019	西島寿幸	2011	半次郎と幻聴ミゲルの夢物語	文芸社
10020	荒木だご	2011	精神病のオレよりの国への遺書	ブイツーソリューション
10021	べてるしあわせ研究所・向谷地生良	2011	レッツ！当事者研究2 「爆発」は「つながり」への渴望だ！	NPO 法人コンボ
10022	ハーモニ	2011	幻聴妄想かるた (解説冊子『露地』)	医学書院
10023	小林和彦	2011	ボクには世界がこう見えていた：統合失調症闘病記	新潮社
10024	平井美帆	2011	獄に消えた狂気：滋賀・長浜「2園児」刺殺事件	新潮社
10025	高村恋うたろう	2011	大切なあなたへ：妻を救ったのは薬でも機械治療でもなかった	文芸社
10026	NHK「ドラクロワ」制作班	2011	ドラクロワ	新人物往来社
10027	尾崎福生	2011	学童交差点	ラグーナ出版
10028	西 純一	2011	西純一の精神障害者ホームヘルパー日記	文芸社
10029	夢里紬	2011	詩う月	文芸社
10030	タニシだいき	2011	統失ひきこもり4年生	文芸社
10031	月野弥生	2011	森の出口、晴れた空	文芸社
10032	柏 繁男	2012	二度ガンが消えた：わが人生の記録	文芸社

統合失調症の闘病記のリスト — ナラティブ教材の可能性を展望する —

小平 朋江 (聖隷クリストファー大学) いとう たけひこ (和光大学)

Making a List of Autobiographical Books on People with Schizophrenia
For Narrative Educational Materials

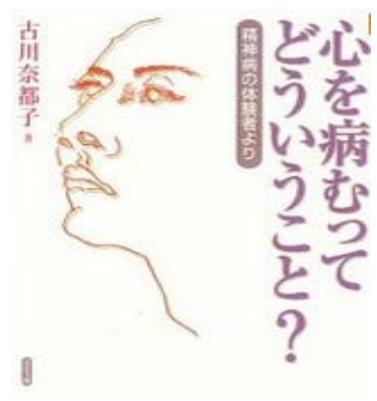
Tomoe KODAIRA
(Seirei Christopher University)

Takehiko ITO
(Wako University)

目的

ナラティブ教材による統合失調症の回復の語りに対して、学生がどのような印象と感想を持ったかの特徴をテキストマイニングで明らかにする。

方法



- 1. 対象:

2014年度「精神看護援助論Ⅰ」

履修者(2年生 151名) 同意した119名

- 2. 手続き:

ナラティブ教材=古川奈都子(2001)

『心を病むってどういうこと?:精神病の体験

者より』 p.12~13、p.34~39を朗読

(15コマ中14コマ目で実施)

方法

- 3. 調査内容:

- 質問項目

教材に、

「関心を持つことができたと思うか」

「役に立ったと思うか」

「もっと知りたい(読みたい)と思うか」

1) そう思わない

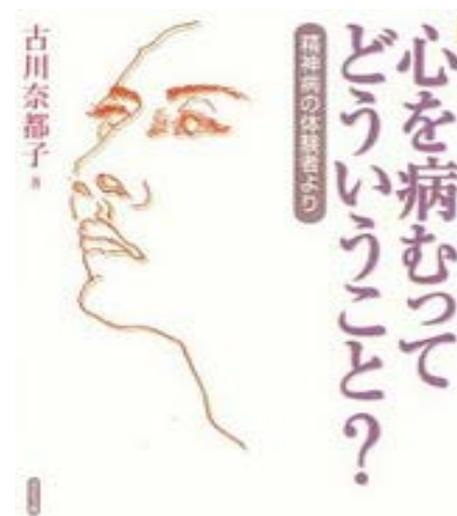
2) あまりそう思わない

3) どちらとも言えない

4) ややそう思う

5) そう思う

- 自由記述 「印象に残ったこと」「感想」



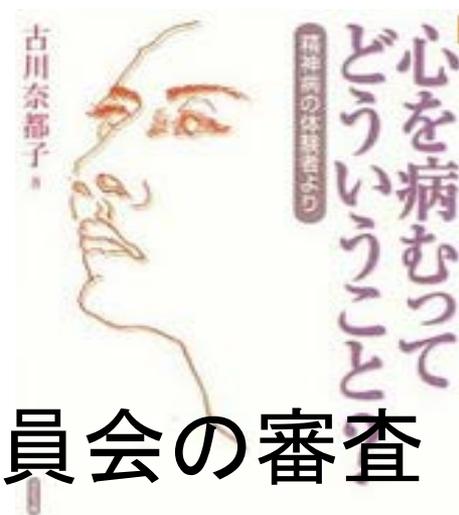
方法

- 4. 倫理的配慮:

本研究は第一著者所属大学倫理委員会の審査を得て実施した(認証番号14051)。

- テキスト分析:

Text Mining Studio Ver.5.1.1.を用いた。



結果

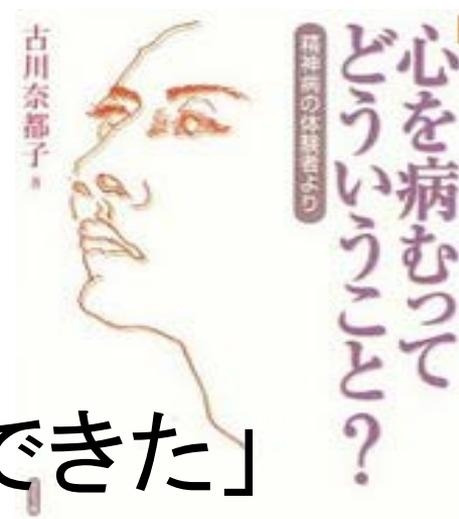
- 教材に、肯定的な回答

問1 84.0%「関心を持つことができた」

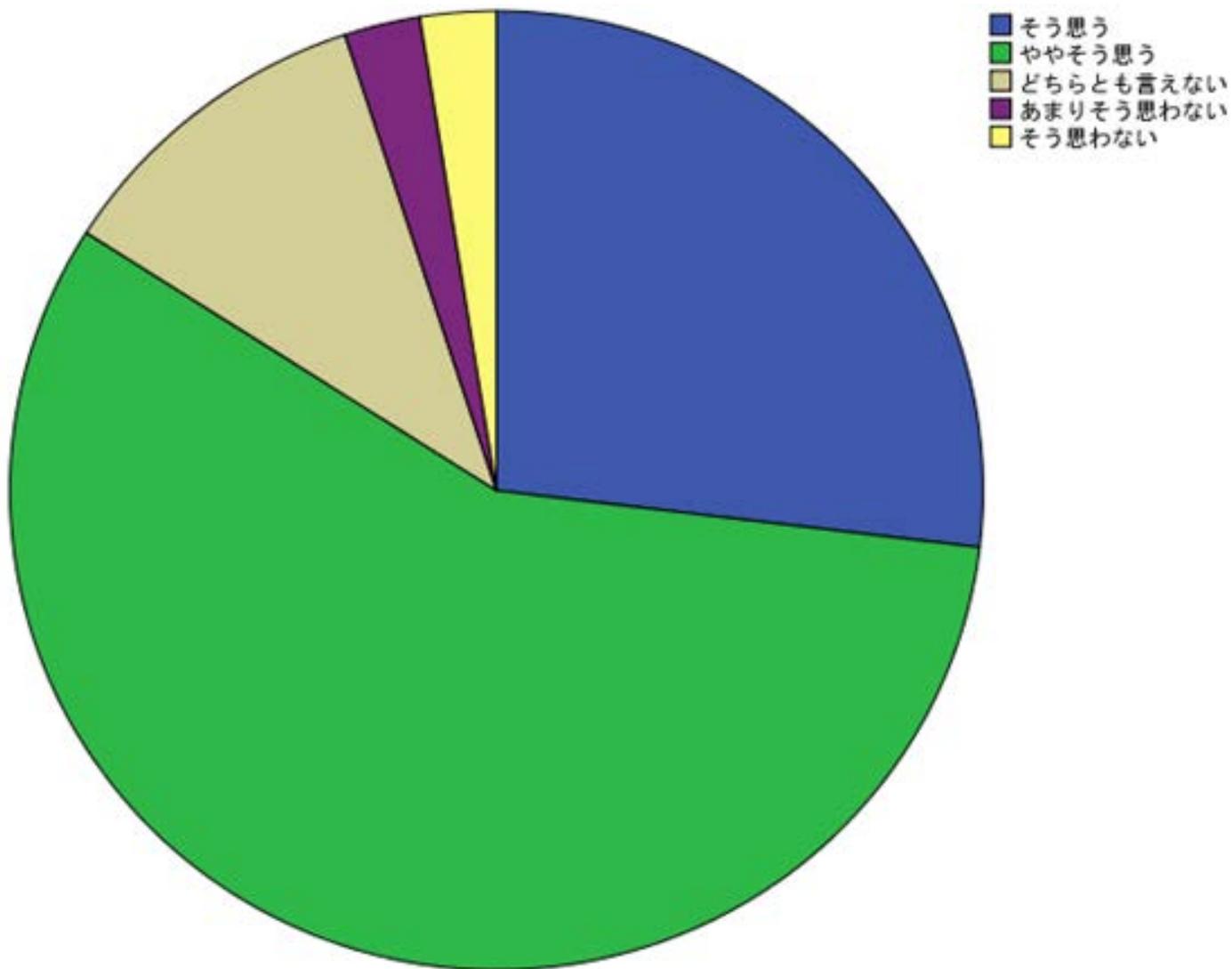
問2 86.6%「役に立った」

問3 76.5%「もっと知りたい(読みたい)」

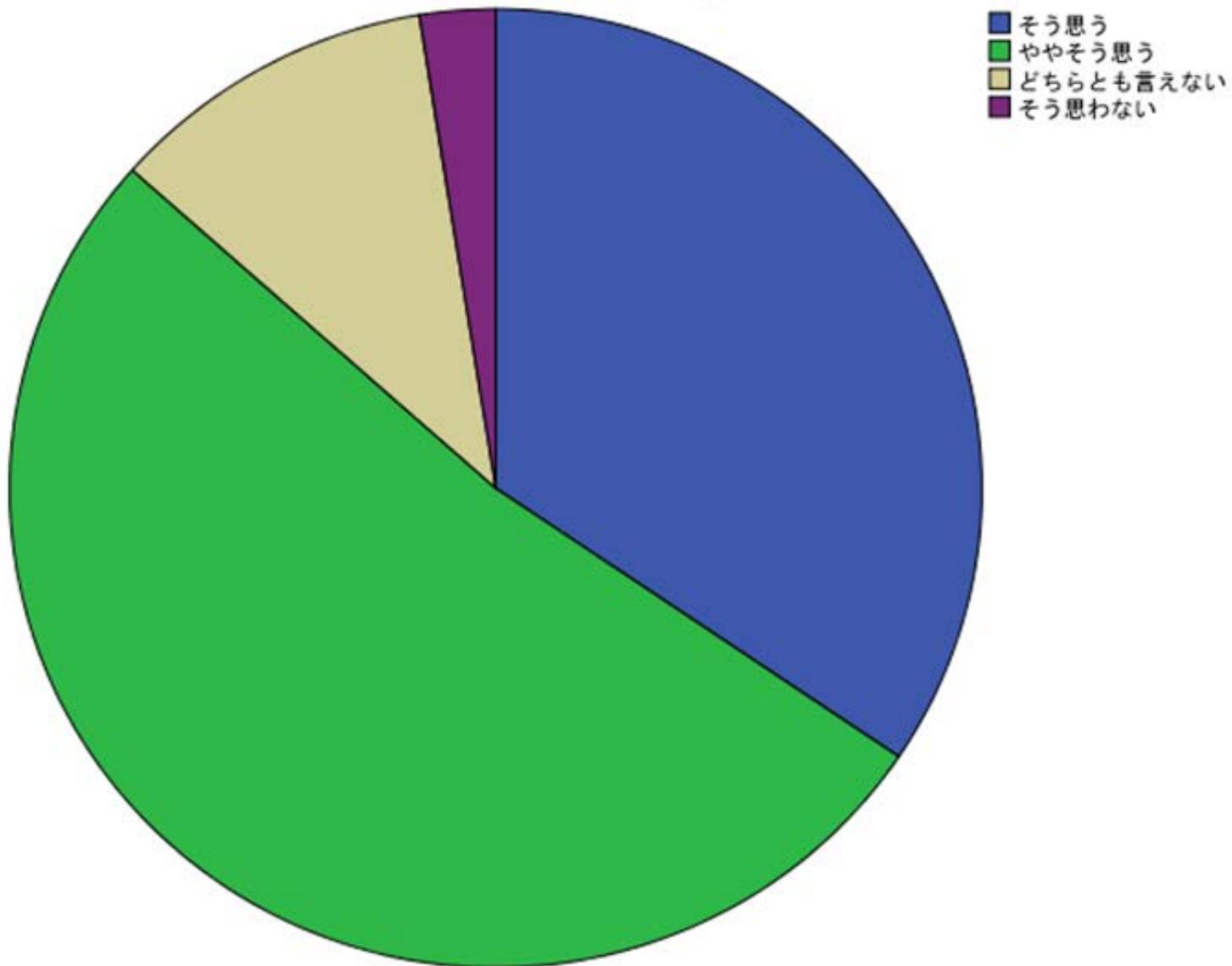
※3つの回答結果をスピアマンの順序相関係数で表すと問1と問2は $\rho = .618$ 、問1と問3は $\rho = .625$ 、問2と問3は $\rho = .542$ 、と中程度に高かった。



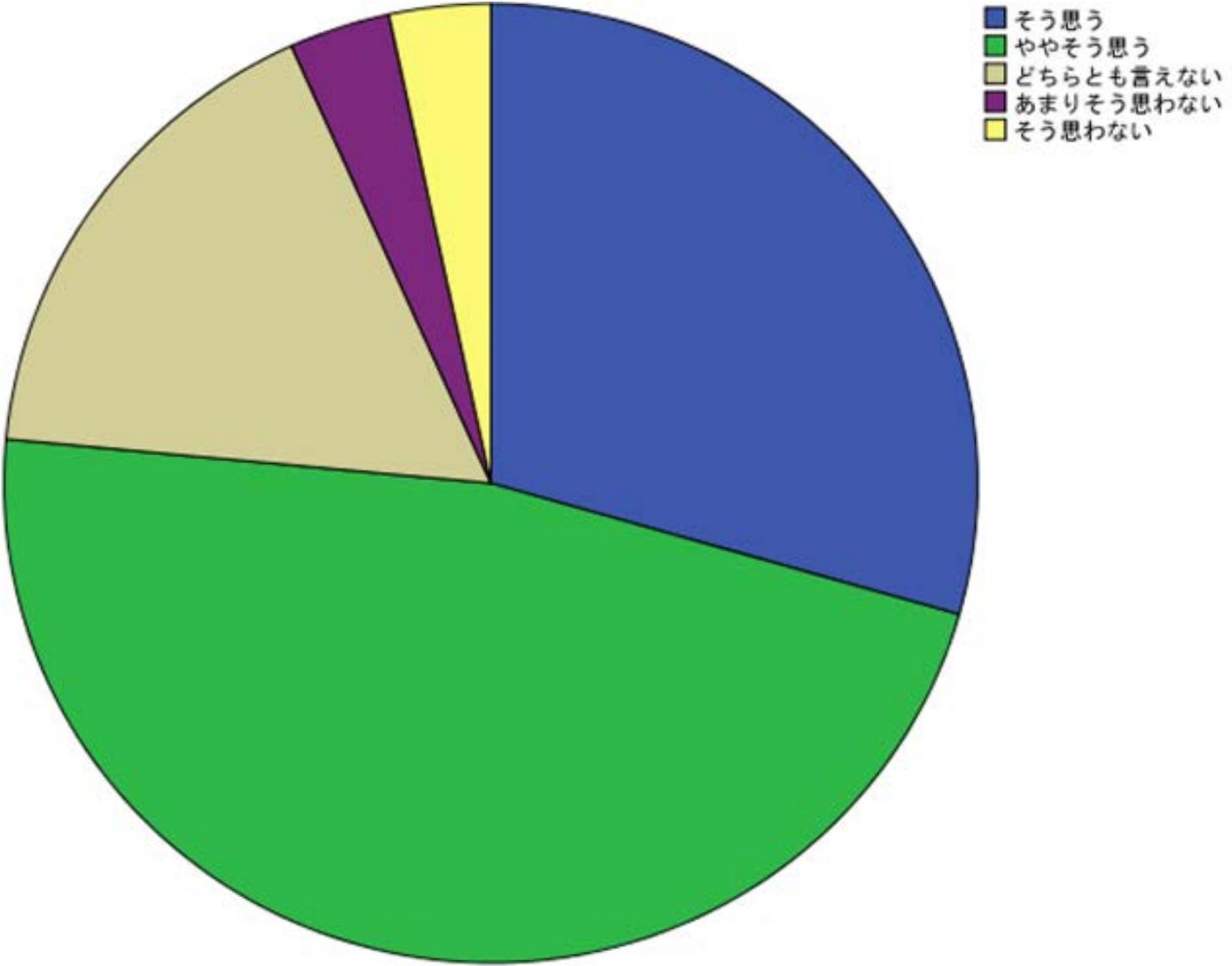
問1 闘病記に関心をもつことができた



問2 闘病記は役に立った



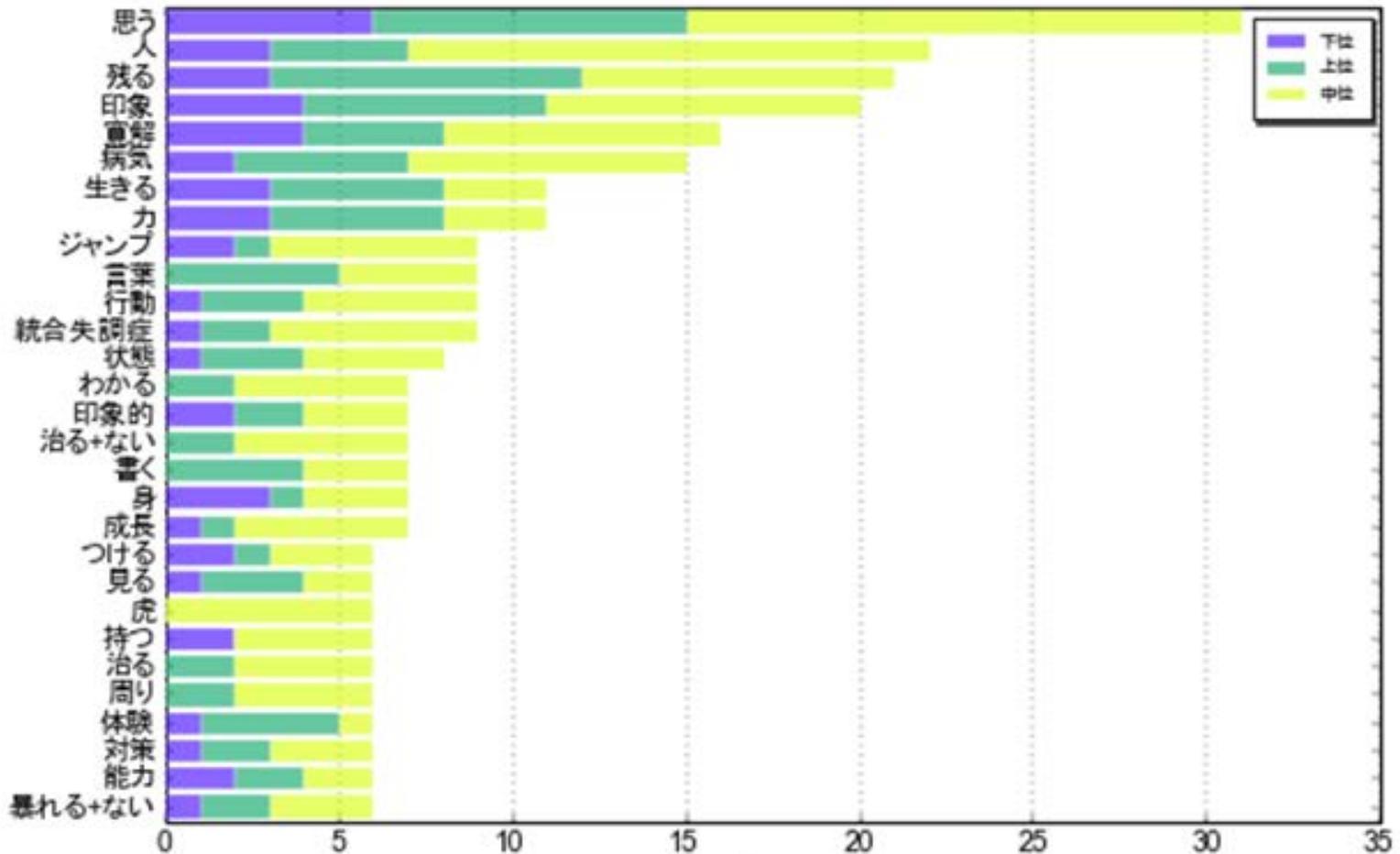
問3 他の闘病記をもっと知りたい(読みたい)



結果 自由記述のテキストマイニング

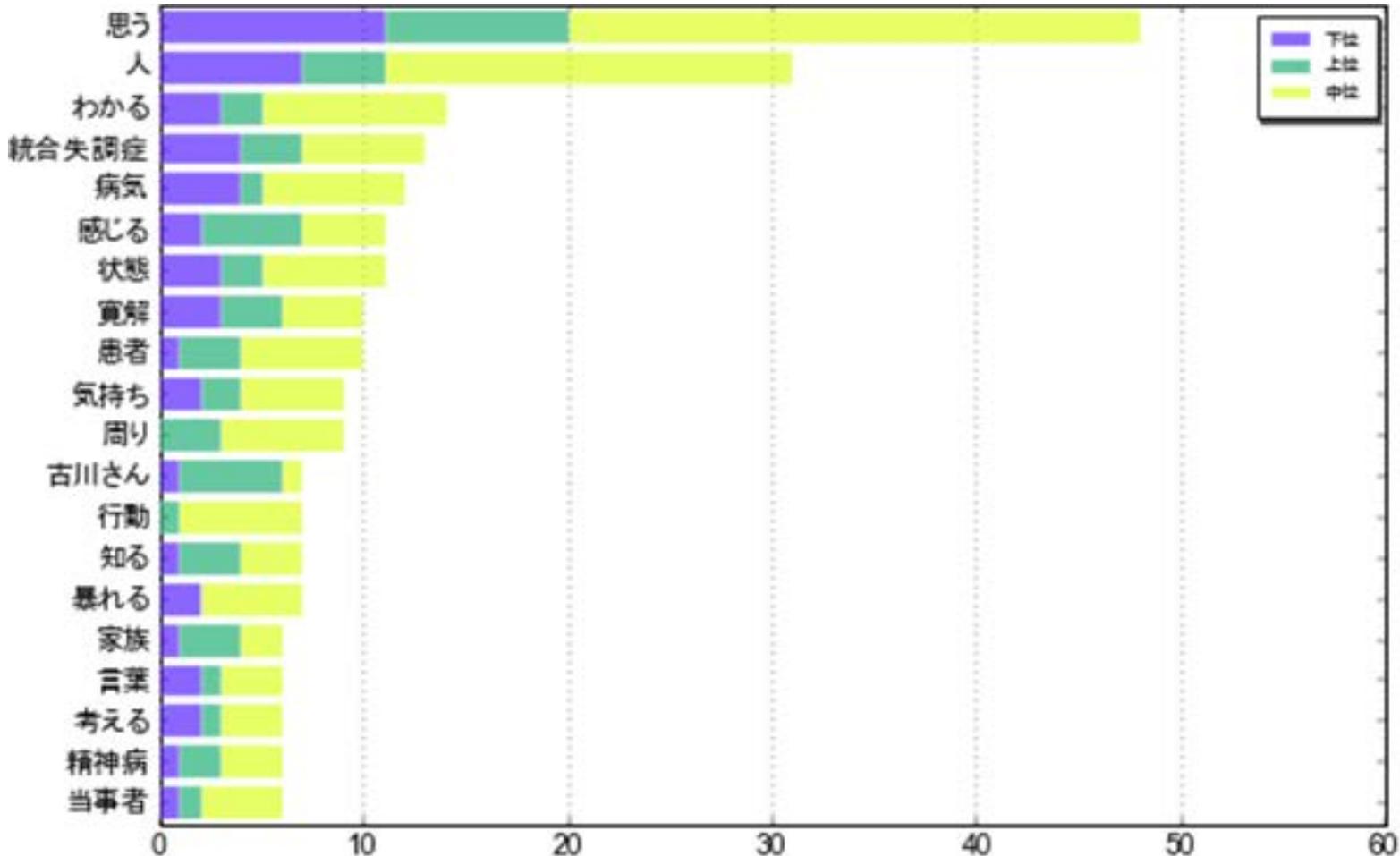
単語頻度分析による上位10単語

<印象に残ったこと> 「思う」「人」「残る」「印象」
「寛解」「病気」「生きる」「力」「ジャンプ」「言葉」



結果 自由記述のテキストマイニング 単語頻度分析による上位10単語

<感想>「思う」「人」「わかる」「統合失調症」「病気」
「感じる」「状態」「寛解」「患者」「気持ち」



結果「生きる」に関する記述

人生のナラティブ＝ライフストーリーの視点

<印象に残ったこと>

41「**生きる**力を身につけたや**生きる**知恵と力は以前よりついたという言葉」

<感想>

72「発病前の状態にはもどることができず、社会に適応しながら寛解という状態で**生きて**いる」

など

結果 リカバリー「内的状態」にあたる記述

「自分がリカバリーしつつあると考える個人によって
経験される**内的状態**—希望、癒し、エンパワメント、
つながり」

＜印象に残ったこと＞

78「病気は治った、治らない、ではなく、病状を自身でコントロールして社会生活が営めるようになることというのがわかった」

98「完治していなくても自分でコントロールできるようになること」

109「治る、治らないではなく成長できたか、ということ」

113「自分が暴れてしまったりすることを防ぐために、ジャンプなど
をしていたということ」

結果 リカバリー「外的状態」にあたる記述 「リカバリーを促進する外的状態ー人権の行使、ポジティブな癒しの文化、リカバリー志向のサービス」

<感想>

- 44「治る、回復するには、やはり患者と、その周りが助け
てくれることが大切であって、看護師は、そういった環
境を作りだすことが重要なのだと感じた」
- 65「統合失調症の人が社会復帰しても暮らしやすい社会
づくりをしたいし、病院から退院していく患者さんをサ
ポートしたい」
- 98「統合失調症の人を周りの人皆で支えることが大切な
のだなと思った」
- 109「統合失調症の人も自分の行動を変えようと努力し
ている。それを受けとめて向き合える人になりたい」など

考察 学生の受けとめ

◎質問項目に対する回答より

・学生のポジティブな受けとめ

◎印象・感想より

・当事者が生きる中で回復を実現する具体的な姿を受けとめ ⇒WHO「内的状態」に該当する内容

・リカバリーを促進する環境や社会のあり方にもまで言及している ⇒WHO「外的状態」に該当する内容

・看護師としてどんな人でありたいか、看護(師)としての役割や機能を考えている

⇒向谷地:リカバリーの関係性・相互性に該当する内容

考察 ナラティブ教材の有効性

ナラティブ教材から得られる気づきや学びの内容



- ①自分がリカバリーしつつあると考える個人によって経験される**内的状態**(WHO)
- ②リカバリーを促進する**外的状態**(WHO)
- ③今を「**生きる**」人として共に生きやすさを模索する**関係性・相互性**(向谷地)



学生が当事者の回復(リカバリー)した姿のイメージを持ちやすくする教材として意義は大きい

本研究は平成27年度～平成29年度科研費基盤研究C(課号:15K11827)の助成を受けた。

今後の課題

- 1) 調査対象者の人数を増やすことで学生の多様な受けとめを把握し、ナラティブ教材の有効性を確認することである。
- 2) 学生にとって当事者が回復(リカバリー)した姿のイメージを持ちやすくすることから、「関係性・相互性」の視点でナラティブ教材の有効性を意義づけることである。(たとえば、リカバリーの内的状態と外的状態をつなぎ、促進するものとしてブロンフェンブレンナーの「発達の生態学」からみた「関係性・相互性」など)

関連の研究(2014・2015)

- 小平朋江・いとうたけひこ(2014)統合失調症の闘病記における回復の語りのテキストマイニング:ナラティブ教材としての教育的意義 日本看護学教育学会第24回学術集会講演集, 224.
- 小平朋江・いとうたけひこ(2014)精神障害者の回復の語り:浦河べてるの家における当事者研究の記述のテキストマイニング 日本心理学会第78回大会論文集,305.
- 小平朋江・いとうたけひこ(2014)『当事者が語る精神障害とのつきあい方』の5人の統合失調症を持つ人たちの回復の語りのテキストマイニング 第34回日本看護科学学会学術集会講演集, 391
- 小平朋江・いとうたけひこ(2015)ある統合失調症闘病記のリカバリーとヘルパー・セラピー原則:西純一『精神障害を乗り越えて:40歳ピアヘルパーの誕生』の内容分析およびテキストマイニング 日本心理学会第79回大会論文集,465.

当事者研究の可視化 テキストマイニングによる探求

小平 朋江  聖隷クリストファー大学

いとうたけひこ  和光大学

第12回当事者研究全国交流集会 浦河大会
浦河町総合文化会館 文化ホール
2015年7月30日(木)10:00-17:30



近年、当事者研究の研究が盛んに行われていますが、和光大学の伊藤先生と聖隷クリストファー大学の小平先生からは「当事者研究の可視化 テキストマイニングによる探求」という研究発表をいただきました。

HOKKAIDO NEWS LINK

「北海道ニューズリンク (www.hokkaido-nl.jp)」は、北海道の参加新聞社がニューズイベントを配信するサイトです

全国交流とべてるまつり 当事者や研究者が参加し【浦河】

日高報知新聞 - 2015/08/01 15:07



べてるまつりの歌で開会したべてるまつり

「第23回べてるまつりin浦河」が7月30、31の両日、浦河町総合文化会館で開催され、全国から精神障がいを持つ当事者や関係者らが多数参加して病気との付き合い方を考えた。

精神障がい者の活動拠点・浦河べてるの家などによる実行委主催。今回のテーマは「世界の苦勞と出会う」。

30日は当事者研究的視点で取り上げる「第12回当事者研究全国交流集会」(実行委主催)が開かれた。

福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座の丹羽真一医師が「当事者研究に期待すること」のテーマ、和光大学のいとうたけひこさんと聖隷クリストファー大学の小平朋江さんが「当事者研究の可視化・テキストマイニングによる探求」のテーマ、スカイプでは東京大学先端科学技術研究センターの熊谷晋一郎さんが「いま、なぜ、見る当事者研究」のテーマでそれぞれ講演し、分科会や全体会も行われた。

31日の本祭では、開会で実行委員長の早坂潔さんが「今年もべてるまつりがやってきました。楽しく僕たちの演技を見ていてください」とあいさつし、べてるのメンバーが「べてるまつりの歌」を披露して開幕。

続いてシンポジウム「世界の苦勞と出会う」では、スリランカとバングラデシュ、アメリカ、韓国の4か国から計5人が来場し、自国や世界の活動などをパネルディスカッションし、海外でのつながりを深める当事者研究の意義を参加者たちが共有した。

この後、「べてる1年の報告」や幻想・妄想で最もユニークなものを表彰する「幻覚&妄想大会」などが行われた。

ありがとうございました

ご自由にお取りください

闘病記・手記・当事者研究の研究に取り組んでいます

日本精神保健看護学会誌 Vol. 19, No. 2, pp. 10-21, 2010

〔研究報告〕

統合失調症の闘病記の分析

—古川奈都子『心を病むってどういうこと？：精神病の体験者より』
の構造のテキストマイニング—

A Text Mining Analysis of an Autobiographical Illness Narrative Book
—“What is the Meaning of Mental Disease?:
The Experience of a Patient with Mental Illness”
Written by Natsuko Furukawa—

小平 朋江¹⁾ とうたけひこ²⁾ 大高 庸平³⁾
Tomoe Kodaira Takehiko Ito Yohei Ohtaka

日本精神保健看護学会誌 Vol. 22, No. 2, pp. 68-74, 2013

〔資料〕

ナラティブ教材を用いた精神看護学授業での統合失調症の イメージの変化

—テキストマイニングによる特徴語と評価語の分析—

Students' Change of Images toward Schizophrenia after the Mental Health
Nursing Class using Narrative Educational Materials
—A Comparison by Textmining—

小平 朋江¹⁾ とうたけひこ²⁾
Tomoe Kodaira Takehiko Ito

キーワード：闘病記、ナラティブ教材、看護学教育、統合失調症

Key words: autobiographical illness narratives, narrative educational materials, nursing education, schizophrenia

